

チーム開発における git の使用手順

池守和槻

著者名 2

2009/05/24

1 はじめに

今回の開発では「Shared Repository Model」に基づいた開発をするための手順書である。
「Shared Repository Model」を以下では「SRM」と略して書く。

2 SRM とは

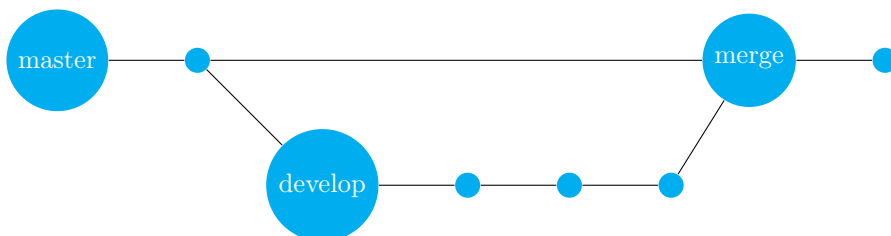
SRM とは複数の開発者 (少人数であることが多い) が 1 つの Repository の push 機能を保持し、Fork をせずに開発するモデルである。詳しくは、以下のサイトを参照

<https://help.github.com/en/articles/about-collaborative-development-models>

3 SRM による開発の流れ

1. 開発する Repository を自分のマシンのローカルに clone する。
2. master branch から開発用 branch を作成
3. 開発用 branch で開発作業を行う
4. 開発中の commit は開発用の branch に commit する。
5. 開発が終了したら、remote repository の開発用 branch に push し pull request をする。
6. コードレビューをして問題がなかったら、master に merge する。

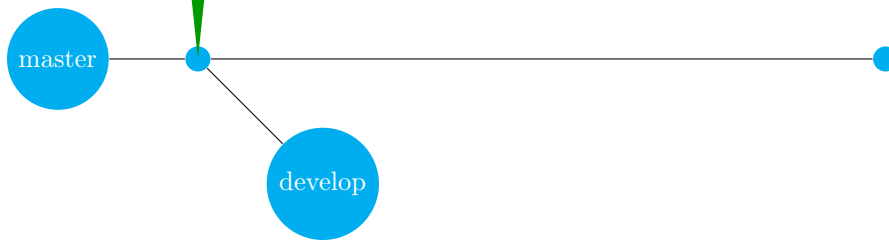
3.1 具体例



以上のような開発フローを考える

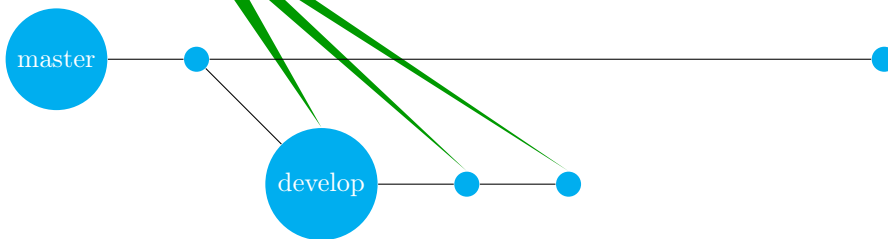
1. 開発する Repository を自分のマシンのローカルに clone する。
2. master ブランチから開発ブランチを作成

master ブランチから開発用ブランチを作成した

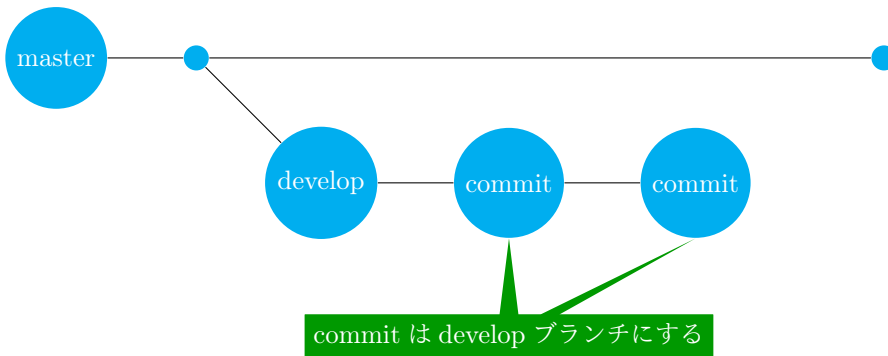


3. develop ブランチで開発

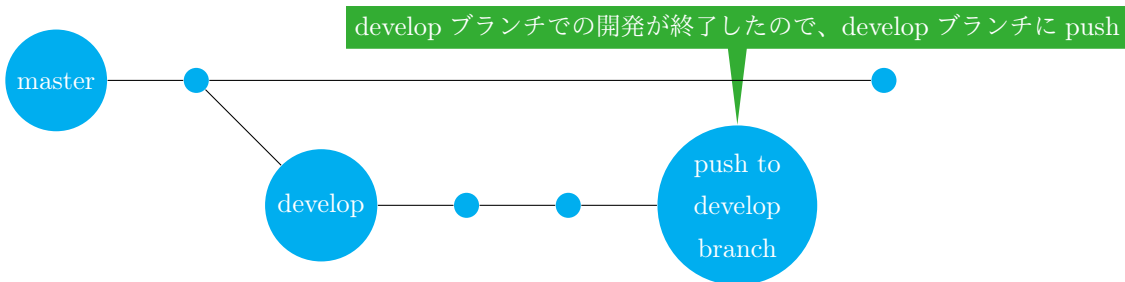
develop ブランチでの開発,
commit は develop ブランチにする



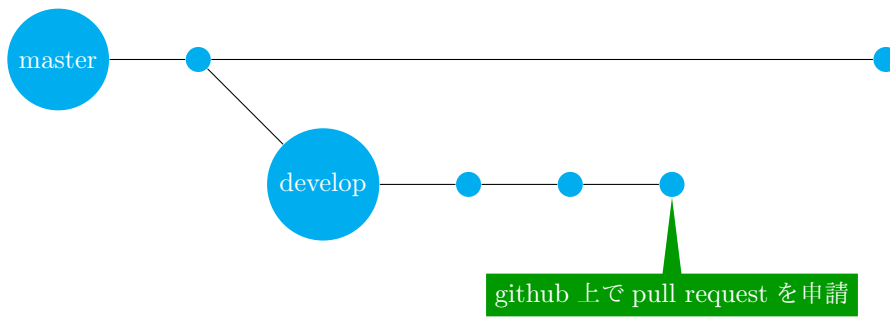
4. 開発中の commit は開発用の branch に commit する。



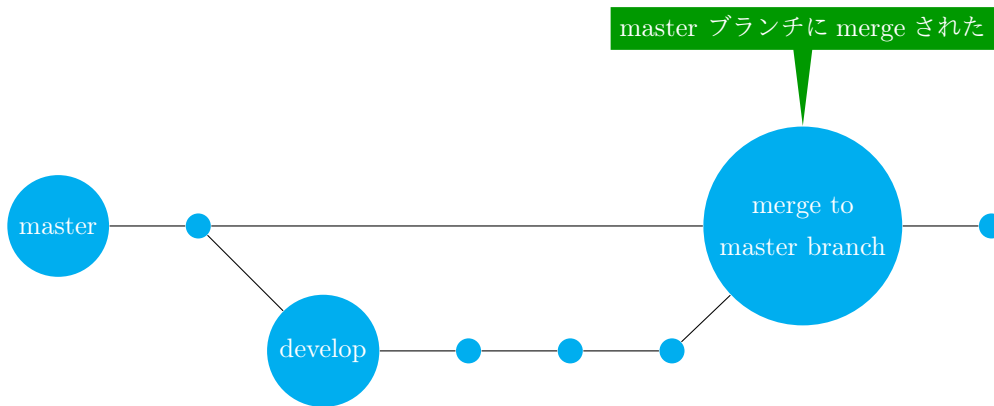
5. 開発が終了したら、remote repository の develop branch に push する。



6. github 上で pull request を申請



7. コードレビューをして、コードに問題がなければ master ブランチに merge



4 各作業のやり方

以下の説明は atom を前提として説明する。

説明のために README.md のみしかない repository test を用いて説明する。

4.1 remote repository をローカルにクローン

省略

4.2 branch の作成,branch の切り替え, 現在いる branch の確認

repository test を clone してきた直後はした画像のようになっている。

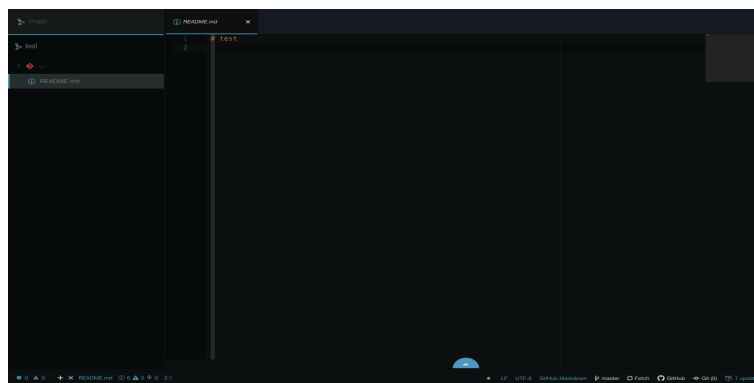


Abbildung1

branch は以下のようにターミナルでコマンドを打つことで作成できる。
また、atom 上でも GUI を用いて作成することができる。

4.3 開発用ブランチに commit